

SFCの多言語入試

総合政策学部 教授 國枝孝弘 くにえだたかひろ

湘南藤沢キャンパス(SFC)の総合政策学部・環境情報学部の2学部は、2016年度入試の一般入試科目にドイツ語とフランス語を導入しました。といっても「英語に代えてドイツ語あるいはフランス語」ではありません。英語の問題の一部について、ドイツ語あるいはフランス語の問題での解答も可能としたのです。受験生は「オール英語」か「英語+ドイツ語」もしくは「英語+フランス語」で解答します。この受験方式はあまり馴染みがありませんが、ここには「グローバル」をどう考えるか、SFCなりのメッセージがあります。実は日本は、大学に入学するまで学校で英語以外の外国語を学ぶ機会がほとんどない、世界でも珍しい国です。2013年の文部科学省の調査によれば、第2外国語を学んでいる高校生は、何と全体の1.4%にすぎません。

このような英語一辺倒ではたして「グローバル」を謳うことなどできるのでしょうか。SFCでは開設当初から多言語主義の方針に基づいて、英語⇨第1外国語ではなく、8つの言語から「第1外国語」を選ぶ制度をとっています。今回の取り組みは、この多言語主義を入試という入り口にまで広げるための改革です。たとえ少数でも、英語に加えて、ドイツ語やフランス語を学んでいる高校生をエンカレッジするとともに、2つの外国語に秀でた学生を育成することを目的としています。

「英語だけでも大変なのに、他の言語なんて……」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが。しかし学んでいる言語をすべて完璧にマスターする必要はないのです。そもそも言語に「完璧」などありえないのは、自分の母語であつても「完璧」がないことからわかります。それよりも複数の外国語を学ぶことは、言語と同時に、文化の多様性にも気づくことを可能にします。そして自分の文化や考え方との「類似と差異」を発見することにもつながります。もちろん、ドイツ語、フランス語だけでは中途半端でしょう。今後は選択できる外国語の数を増やし、多言語を文字通り実現できればと考えています。



談	室
話	

教員によるエッセイコーナー